

# 立命館大学技術士会 第11回総会

## 議 案 書

# R

令和2年(2020年) 6月27日

(一社)中央電気倶楽部 215号室

15:00 ~ 16:00

## 立命館大学技術士会第11回総会議案

### <第1号議案>

立命館大学技術士会第10期(2019年4月1日～2020年3月31日)事業報告

### <第2号議案>

立命館大学技術士会第10期決算報告および監査報告

### <第3号議案>

第11期事業計画(案)および予算(案)

### <第4号議案>

立命館大学技術士会会則改定

### <参考>

第11期役員人事:敬称略(2019年度及び2020年度)

## <第1号議案>

### 立命館大学技術士会第10期(2019年4月1日～2020年3月31日)事業報告

#### (1) 会員拡大と組織強化

当会の基盤強化として、本会員、特別会員、準会員および賛助会員合計200以上を目標としたが、第10期末結果は、本会員155名、準会員3名および賛助会員6社の合計164であった。

業界、OB繋がり等からの勧誘により会員拡大を図った結果、6名ではあるが微増した。

今後も引き続き、建設会および建立会等のOB会を通じて、当会の活動情報を発信して会員の拡大を図る必要がある。

そのため毎年、建設会報には当会の紹介を兼ねて、活動報告等の掲載をお願いしている。

今後も第二次試験合格者の情報入手とともに入会を促進して、会員拡大を図る。さらに昨年の総会で承認を得た土屋新会長のもと、平成卒業の新幹事を7名増員し、加えて副会長を4名体制にした。

当会の活動を迅速かつ会員にとって更なる魅力ある団体にするため、副会長には①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録の各総括責任者を担ってもらい組織強化を図った。

また、第9期から参加した「大学技術士会連絡協議会」であるが、2019年11月30日、東京都市大学世田谷キャンパスにて開催された年次総会に出席し、情報交換を図った。

#### (2) 技術士試験受験への支援

H31年度技術士第二次試験受験支援は、2019年4月6日に2回目の受験ガイダンスを行い、その後の受験講習会は、5月11日および6月15日の2回、実施した。受験講習会では、前年度合格者に受験合格までの体験談を語ってもらった。その後10月29日発表された筆記試験合格者2名に対し、口頭模擬試験を3回実施して合格に導くことが出来た。

R2年度の技術士第二次試験受験支援は、2020年3月7日に1回目の受験ガイダンスを行い、受験申込書、業務経歴、詳述論文等について指導を行った。

また、受講者拡大のため2020年2月に、2009年土木、環境都市系学科卒業生(近畿在住および勤務者の115名)に対し、受験講習会の案内を出して広く参加の呼びかけを行った。

#### (3) 立命館大学への支援

大学の環境・都市系学科の授業を活用し、後進者である学生達に出前講義を実施した。

① 2018年度新たに創設された環境都市工学科1回生(約160名)を対象に、6月3日BKCにて『めざせ！技術士』と題し、技術士資格について説明後、環境系と都市系技術者の職務と役割について講義した。学生達には、一次試験合格を在籍中に目指し、二次試験は卒業後に取得して、技術士として社会に貢献する重要性を説明した。学生には、受講に対するレポートが課せられた。講習会后、環境都市工学科教授陣と懇談会を行い、当会の大学への活動支援の継続要請を確認した。

② 環境システム工学科3回生(約80名)を対象に、「技術者のキャリア形成」に向けた指導のため、『第11回立命技術士懇談会』を7月18日、BKCにて実施した。プレゼン内容は、実社会の経験に基づく公務員、建設コンサルタント、ゼネコン技術士による職務と役割、学生達へのアドバイス等であった。

学生達には卒業後の専門技術者として、その社会活動のあり方や技術者倫理などについて考えさせ、更なる学習意欲の向上に繋がられたと思う。

また講義後、学生達を囲んで細やかな懇親・交流会を催し、盛会のうちに終えることが出来た。

以上の『めざせ！技術士』および『立命技術士懇談会』については、(公社)日本技術士会近畿本部および立命館大学建設会の後援を得て、実施している。

また、大学の科学技術教育活動に協力し、理工学部特殊講義への講師を会員から推薦して派遣した。

#### (4) 技術講演会および親睦会

当会および会員相互の資質向上として、第10回総会時に特別講演会を二つ企画し、環境カウンセラー池北實様より「チェルノブイリ原子力発電所および30km退避ゾーン内の現状」と題し、事故後、30年以上経過した現地に赴き、ガイガーカウンターを身に着けての視察映像にて報告がなされた。

また本学、神子直之教授より「紫外線を用いた水処理技術の現況と今後の展望」と題し、紫外線処理の基礎、導入されるまでのきっかけ、技術の現況に加え開発中の新しい光源とその特性について講義していただいた。当技術の重要性や今後どのような展開が期待できるか等、理解を深めることが出来た。

なお、総会及び講演後、中央電気倶楽部にて交流懇親会を行った。

※6月29日、中央電気倶楽部での総会開催前に、本学理工学部名誉教授、当会顧問の児島孝之先生(享年77歳)が6月25日にご逝去されたため、ご報告するとともに参加者全員で黙祷を捧げた。

また、毎年恒例の交流懇親会は、11月16日に中央電気倶楽部にて開催した。その折、来賓の本学、野村泰稔教授より、「深層学習を用いた社会インフラの損傷検出を目指して」と題し、公共物の健全性を把握するためのAI技術を駆使した調査、診断システムの研究成果についてご講演いただいた。

その後、野村教授を交えた懇親会では、会食を行いながら和やかな雰囲気のもと懇親が図れた。

なお、交流懇親会費から一部、本学の未来人財育成基金に寄付を行った。

#### (5) 会員相互の親睦と技術レベルの向上

当会創設時に発行していた会報を、会員相互の更なる充実した活動を促進することを目的に2017年10月に復活させた。2019年12月には第3号が発刊された。今後も引き続き、会員の日頃の科学技術に係る研究成果や技術報告をはじめ、自由闊達なご意見や近況報告等について投稿していただき、会員相互のコミュニケーションツールとして、活用していただくことを希望する。

なお、会報は当会のホームページに公表しているので、一読願いたい。

#### (6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

① 技術士受験支援基金(受験講習イベント、講師謝礼等)、② 講演会・交流企画基金(講演会イベント、交流会イベント等)、③ 大学支援・共同企画基金(JABEE支援、共同講演会企画等)の3種の基金を設け各事業企画に応え、活用していくこととした。

第10期は予算収支の関係で本基金の積み立ては控えたが、次年度以降も予算の執行状況をみて、基金の充実を図る。

<第2号議案>

立命館大学技術士会第10期決算報告および監査報告  
(2019年4月1日～2020年3月31日)

項 目	予 算	決 算	摘 要
(1) 収入			
①会費等収入	200,000	162,000	個人会費
	100,000	140,000	賛助会費
	20,000	92,070	その他(お祝い+寄付等)
②講習会収入	20,000	16,000	講習会参加費
③		-	
未来人財育成基金	30,000		交流懇親会にて
④その他	2,014	3,000	ゆうちょ銀行利息、その他
-----			
今期計		413,070	
⑤前期繰越金	97,986	97,986	前期残高合計
合計	470,000	511,056	
(2) 支出			
①会員技術研修等支援活動費	75,000	154,132	
②大学教育支援活動費	75,000	52,000	
③技術士試験受験支援活動費	120,000	98,300	62,300(会場費等)+36,000(支援活動費)
④その他活動費	30,000	39,016	
未来人財育成基金	-		27,000(未来人財育成基金→交流懇親会参加費より)
⑤通信事務費	30,000	37,598	
⑥会費振込手数料	10,000	11,177	
-----			
上記計	340,000	392,223	
⑦大学支援・共同企画基金	100,000	-	
⑧予備費	30,000	-	
今期計	470,000	392,223	
	収入額	511,056	
	支出額	392,223	
収支合計＝		118,833	・・・次期繰り越し金額
<p>監 査 報 告</p> <p>立命館大学技術士会第10期会計内容につき、通帳、金銭出納簿、領収証 および入金書類を監査した結果、適正に処理、記載されていると認める。</p>			
令和 2年 5月 11日		立命館大学技術士会	
	会計監事	山下 雅巳	
	会計監事	兼塚 卓也	

積立基金会計（ゆうちょ銀行）

預金名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年 利 率	%
定額貯金① 受験支援基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金② 講演交流基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金③ 大学支援基金	27-03-30	¥150,000	27-09-30	0.04	
定額貯金④ 活動基金等	28-03-29	¥100,000	28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 活動基金等	29-03-30	¥100,000	29-09-30	0.01	
合 計		¥650,000			

\* 定額貯金の利率は3年以上預けた場合の年利率である。  
 また満期時は10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

## <第3号議案>

### 第11期事業計画(案)および予算(案)

#### <事業計画(案)>

##### (1) 会員拡大と組織強化

当会の組織基盤を確立するために、会員の拡大・増強を引き続き行い、正会員、特別会員、準会員および賛助会員について、計200以上を目標に、更なる基盤強化を図る。

具体的には、新体制による新たな役員幹事の増員に鑑み、事務局内の4つ(①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録の役割を明確にして、相互に連携を図りつつ組織の強化を図る。

また、「大学技術士会連絡協議会」については、同様の課題や問題点を抱えている会も多いことから、そのネットワークを活用し、相互に情報交換する場である年次総会(11月開催)に参加する。

##### (2) 技術士試験受験への支援

昨年度同様、既に開催した第1回受験ガイダンスに続き、4月4日に2回目の受験ガイダンスを行い、5月9日および6月13日に模擬試験を含む受験講習会を実施する予定であった。しかし、本年2月以降の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点および関係者の安全確保に鑑み、今年度の受験講習会は全て中止とした。そのため、受講希望者に対しては、担当講師を選任してメールでの指導方法に切り替え対応することにした。

また、毎年7月に実施される第二次試験も、9月から11月に延期されるとのことから、今後は5月末の緊急事態宣言解除後の動向を見据え、講習会実施の可否について柔軟に対応していく予定である。

したがって、毎年筆記試験合格者に指導している口頭模擬試験も、当初の日程を変更して柔軟に対応することとする。

令和3年度の受験支援については、基本的にこれまで同様に来年3月と4月に受験ガイダンスを予定するとともに、来年度の受講者を見据え、経験年数10年の環境都市系学科卒業生(近畿在住、勤務者)に対し、講習会の案内を出す予定である。

##### (3) 立命館大学への支援

昨年に引き続き、環境都市工学科1回生を対象に、6月1日BKCにて『めざせ！技術士』と題し、技術士資格の説明会を実施する。また、様々な先輩技術士(公務員、建設コンサルタント、ゼネコン)からのアドバイスとして講義資料を作成し、web授業としての対応を行う。会員技術士の実務経験や業務内容等を発信することで、1回生の学生達にとって今後、技術者としての倫理観の醸成やキャリアアップの一助として期待できる。また、大学から当会に対し、前期講義の外部講師の依頼が入り会員の一人を推薦した。

##### (4) 技術講演会および親睦会

例年通り、総会時に本大学の先生と異分野の講師を招いて特別講演を企画する。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止および府県を跨ぐ人の移動の自粛要請のため、残念ながら中止とした。

また、毎年11月に実施している交流・懇親会は、11月14日を予定しているが、新型コロナの第2波、第3波の状況や、インフルエンザ等の感染症の動向も見据えたくえで、開催の可否について検討する。

##### (5) 会員相互の親睦と技術レベルの向上

会員相互のコミュニケーションツールとして発刊している会報を、今年も10月頃に引き続き発行する。そのため、会員に対し当会ホームページにおいて、その投稿を広く募集する。

また、本年2月に会員に対し「会員名簿」作成のための情報収集を行ったが、返信用シートの回収率が悪かったので、改めて依頼、協力をお願いすることにする。

##### (6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

本基金の趣旨は上記に記すところであるが、過去に阪神・淡路大震災発生後、あらゆる組織の活動が長期にわたり機能停止に追い込まれた苦い経験等を踏まえ、来る南海トラフ地震をはじめ、この度の新型コロナウイルス感染症等の疫病を含む複合災害、有事の折には本基金が当会の活動継続に有効に活用できるものと考えている。そのため、仮に2年から3年間、会費納入が見込めない状況下でも当会が機能停止することなく活動できるよう、本基金の積み立てが必要ではないかと考えている。

< 予 算(案) >

① 収 入

(1) 会費等	本・特別・準会員	180,000
	賛助会員	60,000
	その他(お祝い+寄付等)	100,000
(2) 講習会等		10,000
(3) 未来人財育成基金		30,000
(4) その他		1,167
(5) 前期繰越金		118,833
合 計		500,000

② 支 出

(1) 会員技術研修等支援活動費		120,000
(2) 大学教育支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		60,000
(3) 技術士試験受験支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		100,000
(4) その他活動費(未来人財育成基金等)		30,000
(5) 通信事務費		50,000
(6) 会費振込手数料		12,000
上記計		372,000
(7) 大学支援・共同企画 基金(3活動基金)		100,000
(8) 予備費		28,000
合 計		500,000

積 立 基 金 会 計 (ゆうちょ銀行)

預 金 名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年 利 率	%
定額貯金① 受験支援基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金② 講演交流基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金③ 大学支援基金	27-03-30	¥150,000	27-09-30	0.04	
定額貯金④ 3活動基金	28-03-29	¥100,000	28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	29-03-30	¥100,000	29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	3-03-30	¥100,000	4-09-30	0.01	
合 計		¥750,000			

\* 定額貯金⑥が第11期の基金予定額である。

\* 定額貯金の利率は3年以上預けた場合の年利率である。

また満期時は10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

<第4号議案>

立命館大学技術士会会則改定

2009年12月に設立以来、本会則にしたがって一步一步着実に歩んできた技術士会も今期で11年を迎える。今後は地震、風水害や疫病等との複合災害が発生した場合に、当会の活動が停止することの無きよう会則を改定し、更なる組織の安定と拡充を図るものとする。

<改定①>

第4章 会議

(種類)

第16条

4. 定時総会は年1回開催する。ただし、地震・風水害および疫病等の災害時ならびに役員が傷病等で開催が出来ない場合は、中止することが出来る。その時は幹事会で予算を決定し、運用を次回総会において報告し、承認を得る。

<改定②>

第8章 附則

(会則の施行)

第27条

本会則を改定し、令和2年(2020年)6月27日より施行する。

なお、詳しくは、会則改定案を参照ください。

<参考>

第11期役員人事：敬称略(2019年度及び2020年度)

役職名	氏名 (敬称略)	卒業年	部門
会長 (1名)	土屋 光弘 留任	S 58	建設
副会長 (6名程度)	楠本 博 留任	S 54	建設
	太田 和夫 留任	H 05	建設
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道
	橋口 正悟 留任	H 15院	建設
幹事 (30名以内)	土屋 光弘 留任	S 58	建設
	西村 敏 留任	S 54	上下水道
	楠本 博 留任	S 54	建設
	日室 伸一 留任	S 54	上下水道、建設
	沢田 道彦 留任	S 54	建設
	吉田 順一郎 留任	S 55	建設
	久後 雅治 留任	S 57	建設
	野村 嘉樹 留任	S 60	上下水道
	中井 稔 留任	H 02	建設
	星野 和之 留任	H 03	建設
	青山 裕之 留任	H 05	建設
	太田 和夫 留任	H 05	建設
	深津 真彦 留任	H 07院	建設
	今井 豊 留任	H 08	上下水道
	北岸 真佳 留任	H 12	上下水道
	春田 健作 留任	H 12院	建設
	菊池 博之 留任	H 12院	機械
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道
	長谷川 真也 留任	H 13	建設
	北口 和雅 留任	H 13	上下水道
玉木 政人 留任	H 13	建設	
橋口 正悟 留任	H 15院	建設	
人羅 真一 留任	H 16	建設	
服部 亘啓 留任	H 17院	建設	
幹事長	西村 敏 留任	S 54	上下水道
監事 (2名)	山下 雅巳 留任	S 53	建設
	兼塚 卓也 留任	S 57	建設

幹事および監事以外の役員

役職名	氏名 (敬称略)	摘要
顧問	山田 淳 田中 伊三雄 糸田川 廣志	
相談役	奥村 一 大同 淳之 岸田 順三 渡邊 郁夫 大森 秀高	